

# ニュースレター

## ——新聞から拾う医界の周辺あれこれ——

<15. 10. 1~15. 10. 31>

10月2日

■あらゆる組織や臓器に分化する能力があるサルの胚性幹 (ES) 細胞から作製した神経細胞を、人間のパーキンソン病と同じ症状を示すサルの脳に移植して症状を改善させることに、京大大学院医学研究科の橋本信夫教授 (脳神経外科) らが世界で初めて成功。(読売)

10月4日

■木材の防腐剤として家庭園芸用に使われる「クレオソート油」に、高濃度の発がん性物質が含まれていることが分かり、厚生労働省は発がん性物質の含有濃度の基準値を設定して規制に乗り出すことが明らかに。(読売)

■「1週間に合計1時間以上速歩きすれば血圧が下がる」ことが、国立健康・栄養研究所と国立療養所中部病院の研究で明らかに。(読売)

10月7日

■もっとも危険な感染症の一つとして知られる「エボラ出血熱」で本来は人体内に侵入したウイルスを攻撃する免疫物質「抗体」が、逆にウイルスの増殖を助けることが明らかに。(読売)

■パソコン業務をする人の3人に1人が目の表面が乾きやすい「ドライアイ」であることが、日本眼科医会 (佐野七郎会長) の調査で明らかに。(読売)

10月9日

■富士通は診察の順番などの情報を病院と患者が携帯情報端末 (PDA) を利用して共有できる通信システムを開発。(読売)

10月10日

■禁煙の成否は、神経伝達物質であるドパミン

の機能に変化をもたらす2つの遺伝子にあることが、米ペンシルバニア大による研究で明らかに。(日経)

10月14日

■使用禁止後も変圧器や蛍光灯の安定器などに大量に残っている有害物質のポリ塩化ビフェニール (PCB) が、きわめて微量で脳の機能の発達を阻害する仕組みが、科学技術振興機構の研究チームによって解明。(朝日)

10月16日

■キリンビールは、グループの小岩井乳業と昭和女子大と共同で花粉症などアレルギー症状の改善作用がある乳酸菌を発見。(日経)

10月21日

■ブロッコリーや白菜などのアブラナ科野菜や、シメジやナメコなどのキノコを多く食べる人は、あまり食べない人に比べ、胃がんや大腸がんになりにくいことが、国立がんセンター研究支所 (千葉県柏市) の調査で明らかに。(読売)

■重い目の病気を持つ患者の角膜に、電極を埋め込んだコンタクトレンズを取り付け、電気刺激で視力を改善させたり、視力の低下を防ぐことに大阪大病院眼科の不二門尚教授らが世界で初めて成功。(読売)

10月30日

■新型肺炎「重症急性呼吸器症候群」(SARS) の患者から分離したSARSウイルスが、家庭で飼育されているネコやフェレット (イタチ科の飼育動物) に簡単に感染することが、オランダや香港の研究チームの実験で明らかに。(毎日)